

新型コロナワクチンの接種をご希望の方へ

この予防接種は、希望される方が接種するもので、全ての方に接種の義務はありません。
予防接種の効果や副反応についてよく理解しましょう。気になることやわからないことがあれば医師に質問し、十分に理解してから接種を受けてください。

1. 新型コロナウイルス感染症はどんな病気？

新型コロナウイルス感染症は、咽頭痛や鼻水、倦怠感、発熱、筋肉痛等の症状があらわれることが多く、インフルエンザと似た症状がみられます。軽傷のまま治癒する人も多い一方、特に高齢の方は重症化すると、呼吸困難等の肺炎の症状が悪化する場合もあります。

2. 新型コロナワクチンについて

新型コロナワクチンは、ワクチンを接種してから免疫がつくまで約1～2週間かかります。人や動物における国内外で実施された研究等により、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められています。

3. 接種対象年齢（接種日において下記に該当する方）

- ① 65歳以上の方
- ② 60歳以上65歳未満の方で心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有する方（身体障害者手帳1級の方）

4. 接種を受けることができない方

次のいずれかに該当すると認められる場合は、予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱のある方（体温が37.5℃を越える場合）
 - ② 重篤な急性疾患にかかっている方
 - ③ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（※）を起こしたことが明らかな方
 - ④ その他、医師が予防接種を行うことが不適当な状態と判断した方
- （※）アナフィラキシーとは、じんま疹等の皮膚症状、腹痛や嘔吐等の消化器症状、息苦しさ等の呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合をいいます。

5. 接種を受けるときに注意を要する方

次のいずれかに該当する方は、健康状態や体質等を担当の医師にしっかり伝え、よく相談した上で接種を行ってください。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液その他慢性の病気で治療を受けている方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱した方及び漸新世発疹等のアレルギーを疑う症

状がでたことがある方

- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある方
 - ④ 今までに免疫不全の診断がなされている方および近親者に先天性免疫不全症の方がおられる方
 - ⑤ 接種しようとする接種液の成分によってアレルギーを起こすおそれのある方
 - ⑥ 抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害のある方（※）
- （※）新型コロナワクチンは筋肉内に接種することから、⑥の方は接種後の出血に注意が必要となっています。

（接種後の注意事項）

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおきることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後の副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部分を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

6. 予防接種の副反応

○主な副反応として、注射部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復します。また稀な頻度でアナフィラキシーが発生したことが報告されています。

○mRNAワクチンでは、頻度としてはごく稀ですが、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されており、思春期や若年成人に、女性よりも男性に、より多くの事例が報告されています。日本におけるこれまでの報告状況をふまえ、心筋炎や心膜炎の特徴的な症状としては、ワクチン接種後4日程度の間に、胸の痛みや息切れが出ることが想定されます。こうした症状があらわれた場合はすみやかに医療機関を受診してください。

7. 重篤な副反応発生時の救済制度について

今回の新型コロナワクチン接種を受けた方が、ワクチン接種によって重篤な副反応が発生した場合は、医療費・医療手当・障害年金・遺族年金等、一定の給付を行う制度があります。副反応や予防接種健康被害救済制度について不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

詳しくは市ホームページをご参照ください。

最新の情報は、厚生労働省ホームページをご確認ください。